

# 教職員情報

連載第18回

## 京大植物園観察会

第54回 京大植物園観察会レポート

2007年9月27日(木)12:05~12:55 曇り

テーマ『花と実の地図を作ろう Part II』

ガイド: 西田 佐知子さん(名古屋大学博物館)

坂本 三和さん(京大フィールド科学教育研究センター)

今回の観察会は「花と実の地図を作ろう」という題で行われました。これは、いつもの講義形式の観察会とは違い、参加者みんなで植物園の中に咲いている花などを探し、どこにどんな植物があるのかを地図に描いていこうという企画です。

第1回を春の終わりに企画し、今回が2回目でした。

今年は涼しくなるのがとても遅れ、観察会の当日も、まだ汗ばむような気配の1日でした。そのせいなのか…参加者は12名だけ。スタッフの方が多いのではないかと、いうちょっと寂しい会でした。第1回が楽しくなかったのかなあ、とやや不安にかられながら、観察会が始まりました。

一同で植物園を4半周ほど回り、その後で4つの班に分かれます。この班ごとに、担当場所を歩き回り、花と、今回は秋ですので実も探すという作業でした。花や実を見つけると、その色のシールを地図に貼り、植物の名前を書き込んでいきます。約40分ほど探した後、各班の地図の張り合わせ、1枚の大きな植物園の花・実地図ができあがりしました。

特に目を惹いたのは、甘い香りを漂わせながらあちこちに大量に落ちているチャンチンモドキの山吹色の実。また、ひっそりとしていますが、ネコノチと呼ばれる木に小さな実が熟していました(なぜこんな名前なのかは、ぜひ実物を見て確かめてください)。花で見ごたえがあったのは、植物園の中ほどで紙ふぶきのように散り始めていたオオモクゲンジの黄色い花でした。

今回は12名と心細くなるような参加者の数でしたが、うまくしたもので、各班に1人はかならず植物に詳しい人がいて、春以上に綿密な地図が出来上がりました。また、今回を最後に、植物園の実と鳥の関係を研究されている大学院生の講義もあり、会としてはひじょうに充実していたように思います。今後もこの地図作りを続けるかどうかは、参加者の方々の要望にもよるでしょうが、講師の1人として参加させてもらった私にとっては、講師から参加者への一方向ではない形式と、その季節季節の植物園の全貌を心に刻むことができる、とても貴重な機会に思えました。(西田佐知子)

2回目の地図作りでは、秋のはじまりの植物園で花と実を探しました。初めての取り組みだった1回目よりも多くの植物に記録することができました。

地面に落ちている実を見つけたときには、親の木(母樹)の位置も確認し、実は動物にくっ付いたり、食べられ



▲みんなで作った花と実の地図

たり、風で飛ばされたりと、様々な形で運ばれます。それぞれの実がどのタイプなのかも考えながら観察しました。今回はまだ熟していない実が多く、地図では全体的に緑色が目立っています。

秋が深まった11月祭の頃には、様々な色に熟した実が見られることでしょう。(坂本三和)



▲シナノキの実



▲ヒガンバナ

### 第57回観察会のお知らせ

日時：12月14日(金) 12:05～12:55

場所：京都大学理学部附属植物園

『冬の植物観察、小さな世界をのぞいてみよう』

ガイド：佐久間 大輔さん(大阪市立自然史博物館)

植物園前に集合してください。

この観察会は京エコロジーセンター環境保全活動支援を受けて開催しております

京大植物園を考える会 Email:[kyotoubg@hotmail.com](mailto:kyotoubg@hotmail.com)

<http://members.at.infoseek.co.jp/bgarden/>

「ひとつまえにもどる」

Copyright (C) SCOOP. NET Kyoto-Univ CO-OP. All Rights Reserved..